

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	③ ④
	3 A
排架番号	15
	8-1-35

8-1-35

0163

昭和二十年九月八日

商工大臣諮問ニ對スル答申  
「業界ノ意見照會事項」中一ノ(一)及(二)

日本經濟聯盟會  
重要産業協議會  
全國商工經濟會協議會  
商工組合中央會

国立公文書館	
分類	(2) (背)
配架番号	3 A
	15
	8-1-35





尙右工業ノ發展ト併行シテ我國農業ノ振興發展ヲ圖ルベキハ勿論ノコトナリトス。

(註)

(1)支那事變前昭和十一年末ノ我國紡績業保有錠數ハ一千三百八十八萬錠ニシテ此ノ中三分ノ二ハ輸出用、三分ノ一ハ内地需要ニ充テラレ居リタル處現有設備ハ企業整備等ニ依リ僅ニ三百萬錠前後ニ激減セリ。之ガ復興ハ殊ニ急務ナリ。

(2)昭和十一年中ノ石炭產出ハ約四千萬噸ニシテ民生安定並ニ輸出工業用トシテ最低此ノ程度ヲ必致トシ、尙ホ將來二割以上ノ増產稼行ヲ適當トスベク右ハ復員等ノ吸收源トシテモ有效ナリ。

(3)我國水力電氣ハ現在五百萬キロワットノ設備能力ヲ有ス、之ヲ「フル」ニ運轉スルヲ認メシメテ大イニ民需產業並ニ賠償產業ノ能率ヲ擧グベシ。

四 原材料ノ輸入確保

前項ノ趣旨ニ依リ國內工業ノ復興乃至振興ノ必要トスル以上、之ニ必要ナル原材料ノ輸入ヲ確保スベキハ當然ニシテ、此點ニ就テ千數字の論據ヲ示シ聯合國側ヲ納得セシムルヲ要ス。

#### 食糧輸入ノ確保

我國ガ今後狹隘ナル國土ニ八千萬ノ人口ヲ扶養セムガ爲ニハ極力農業ノ振興發展ヲ圖ル要アルハ勿論乍ラ尙且舊外地、滿洲國及ビ南方諸國ヨリ相當大量ノ食糧ヲ輸入スルニ非レバ容易ニ民生安定ヲ期待シ得ザルベシ。此點、特ニ數字の根據ヲ以テ我國ノ窮狀ヲ明カニシ食糧輸入ノ確保ヲ圖ル必要アリ。

#### 六 國際貿易ヘノ速ヤカナル參加要求

「ポツダム」宣言第十一條ハ日本ノ輸出貿易ハ將來之ヲ許サルベシト規定セルヲ日本經濟ノ平和的構成ヘノ轉換ヲ圓滑且急速ナラシムル爲ニハ之ガ實現ハ急速ナルヲ要ス。而シテ我國貿易ノ特性ハ東洋及南洋諸國トノ經濟關係ニ依存スルコト甚大ナルモノアリ、今次終戦ニヨリ我國ハ此等諸國ニ對スル政治勢力ヲ喪失セリ

ト雖キ之ニ對スル經濟關係ニ就テハ極力之ヲ保持存續シ得ルヤウ  
 努メラレ度シ。又之ニ伴ヒ船舶ノ確保、借款ノ供與、暫定的關稅  
 取極メ等ヲ必トス。

而シテ、我國ガ國際貿易ニ參加スルニ際シテ問題タルベキ過去  
 ノ實績ニ就テハ、支那暴變勃發前ノ昭和九、十、十一、三ヶ年度  
 輸出入貿易總計ノ平均數字ヲ以テ其ノ基準タラシムルヲ妥當トス。  
 尙右ハ聯合國側ノ戰後經濟事情上之ヲ容認スベキ理由尠シトモ  
 ズ、交渉方法ノ如何ニヨリテハ相手國側ノ贊成ヲ得ルコト至難ニ  
 非ザルベシ。

セ 在外業務ノ存續

中華民國、滿洲國、朝鮮、臺灣其他外國各地ニ於テ從來行ハレ  
 タル我國會社及ビ個人ノ業務ハ極力之ガ存續ヲ認メシムルヤウ交  
 渉セラレ度シ。

ハ 輸送機關ノ確保

我國産業維持ノ爲メニハ原材料並ニ製品ノ輸送ノ前提條件トス  
 ベク。之ガ爲メ一定噸數ノ船舶ノ保有、運航並ニ建造、鐵道、電  
 車車輛及ビ「トラック」ノ製造ヲ要求スル必要アリ。

其他當面ノ緊急折衝事項

(1) 一般命令第一號ニ依リ軍需會社ノ設備資材ハ現状保持ヲ命ゼラ  
 レ居ル處、民生回復ノ爲ノ産業へ轉換シ得ル可能性多キモノニ  
 就テハ例ハ部分的タリトキ之ヲ速カニ解放スルコト

(2) 食糧・特ニ米及ビ鹽ノ確保如何ハ日本國民ノ死活ヲ決スベキ刻  
 下最大ノ問題ナルト同時ニ現下「インフレーション」防止ニ于  
 重大ナル關係アル事實ニ鑑ミ此際政府ハ至急聯合國ニ交渉シテ  
 賠償問題ト一應切離シ、即チ泰、佛印及ビ中華民國等ヨリ相當  
 大量ノ米及ビ鹽ヲ輸入スベキ方策ヲ講ズルコト切要ナリ。

(3) 「インフレーション」激化阻止ノ立場ヨリ軍票ノ使用ハ極力之  
 ヲ拒否スルコト



(4)瓦斯及び冬期暖房用設備ノ速急回復ヲ圖ルハ民生安定並ニ産業活動再開始ノ爲メ絶對必要ナルヲ以テ之ガ爲メ必要ナル資材等ノ確保ヲ期スルコト

尙之等緊急事項ニ就テハ研究ノ進ムニ從ヒ其ノ都度當局ニ申達セントス。

(二)右ニ關シ業界ノ輿論ヲ十分交渉ニ反映セシムル方法

一 聯合國トノ交渉ニ當リテハ政府各省並ニ民間ヨリ相手方トノ折衝ニ最モ適任ナル人士ヲ簡拔組織セル官民合同ノ全權委員團ヲ組織シ此機關ニ依ル一元的交渉ヲ實施スベキコト

二 聯合國側ノ經濟商議陣容ニ對應シ、適時民間顧問、隨員ヲ動員シ得ル如ク豫メ準備シ置クコト(例ヘバ先方ノ民間隨員ノ願觸、員數ニ即應シテ我國モ即時之ニ對抗スベキ隨員ヲ選ビ得ルガ如キ準備)

三 民間ノ政府顧問、委員又ハ隨員ノ人選ハ政府單獨ニテ行ハズ民間團體ニ推薦セシメ若シクハ之ニ諮ルモノトシ、之等顧問委員隨員ヲシテ組織ノ基盤ニ立ツ責任アル言動ヲ探ラシムルコト

四 財界ノ總意ヲ代表シ得ル主要民間經濟團體ノ合議體ニ對シテハ活  
 潑ナル涉外活動ヲ行ハシメ相手國側民間團體、新聞記者團等トノ  
 折衝ニ依リ政府ノ公式交渉ニ寄與セシムルコト

五 國際商業會議所等適當ナル國際機關ヲ通ジ我國經濟界ノ總意ヲ表  
 明スル方策ヲ講ズルコト

六 主要民間經濟團體ハ戰後經濟ノ處理ニ關シ經濟界ノ總意ヲ凝結シ  
 總知ヲ動員スルタメ、共同ノ委員會ヲ設置シ戰後處理ノ問題ニ關  
 シテハ各國體ハ右委員會ノ協議ノ下ニ活動スルコトトシ單獨ノ活  
 動ヲ行ハザルモノトスルコト

而シテ今後政府ノ諮問事項ニ對スル經濟界ノ答申ハ本委員會ニ於テ  
 審議考究ヲ行フコトト致シ度シ。